

令和2年4月22日

保護者様

山県市立高富中学校

校長 森川 勝介

命を懸けて かけがえのない命と向き合う人に感謝

4月10日（金）から始まった「フライデー・オーバーション」を知っていますか。感染リスクと隣り合わせで働く医療従事者の方に感謝の気持ちを届ける運動の1つとして、福岡市が提唱したものです。この動きは、東海地方でも広がり始め、西濃運輸（岐阜県大垣市）が拍手した動画を公開すると、岐阜県のスポーツ協会らの多くの人が賛同し、拍手で医療従事者の方に心からの感謝を伝えました。人に感謝を伝える心は、誰もがもっている優しさの行為の1つであると思います。

そんな中、「職員の子ども登園拒否」「診察券返すと拭かれた」こんな見出しの新聞記事（2020.4.18 中日新聞）を目にしました。新型コロナウイルス感染症に、最前線で向き合う医療従事者を、差別や無理解が追い込んでいる現状があるのです。毎日、増え続ける国内、そして岐阜県内の感染者の推移をテレビや新聞で知ること、私たちは不安な気持ちになってしまいます。しかし、医療従事者の方は、こうした感染してしまった人を救うために、四六時中、最善の治療にあたってみえるのです。見えないコロナウイルスは、命の危険を伴い、恐怖でしかありません。しかし、人の命を守る使命と責任から、自分の命を懸けて医療と向き合い、かけがえのない時間を費やしてみえるのです。こうした医療従事者の方の存在なくして、今の日本はありません。心よりの感謝をすべき、過大な役割を担ってみえることを忘れてはいけないと思います。

こうした状況のもと、この数カ月間、各地に緊急事態が宣言された局面で、新型コロナウイルスをめぐるいくつかの誤った情報がネット上で広がり、社会が不安な状況に至ったことも事実です。間違った情報によって、人の心が折れる風評をもたらすことは、あってはならないことです。経験したことのない不安な毎日だからこそ、正しい情報かどうかを見極めながら、人として、人のために何ができるのか、考えてみてください。そして、一人一人がよりよく生きるために、「今」と向き合い、改めて考えて行動するときではないでしょうか。